

笹川記念保健協力財団 奨学金支援
助成番号：2015B-02

[様式4]

2015年 3月 9日

公益財団法人 笹川記念保健協力財団

理事長 喜 多 悦 子 殿

2015年度奨学金支援

完 了 報 告 書

所属機関・職 独立行政法人 千葉大学大学院 博士前期課程 1年

氏名 萩谷 翔太

<年間の学び・成果>

大学院での授業では成人看護学、看護教育学、看護管理学、実践方法論（看護政策、看護倫理、看護理論、コンサルテーション）を受講し学びを深めた。主専攻の成人看護学では、英語論文の精読やクリティーク、ディスカッションを行い、英語論文の読み方や様々な研究手法についても学びを得た。

10～11月にCNS実習Ⅰを外来化学療法室にて行い、実際に患者を受け持ち、看護経過を立案から評価まで行った。CNSとして適切に病態を把握し、過去・現在・未来と時間を意識し患者の生活をアセスメントできるか、患者を俯瞰的な視点でアセスメントできるか、CNSとして多くの視点を持って患者だけでなく家族をアセスメントできるか、患者の力を高めるために必要なことは何かを考えて計画していくことなどの重要性和、自分なりの課題を見出した。1月には実習Ⅱを行い、がんCNSの先輩にシャドーとして付き、実践、教育、相談、調整、倫理、研究の6つの役割について学んだ。6つの役割を総合的に発揮する必要があること、多職種が関わる中でCNSとしてどのようにチームを動かしていくのか、CNSとして周りを動かす前に、まず自分自身の能力や傾向について知る必要があることを学んだ。

10月より修士論文としての看護研究に取り組んでいる。増島准教授の指導を受けながら進めており、3月1日の千葉大学内の倫理審査委員会に計画書を提出した。承認を得た後から実際に研究計画の実施に取り組む予定となっている。研究のテーマは「終末期がん患者の緩和治療過程における苦痛の認識」とし、終末期がん患者の緩和治療の過程における苦痛の認識を明らかにし、終末期がん患者が考える望ましい生き方を実現するための看護支援を検討することを目的としている。また、研究デザインではGiorgiの記述式現象学的デザインを用い分析を行い、終末期がん患者の苦痛の認識を、患者視点のより深い部分で明らかにし、そこからの必要な看護支援を検討したいと考えている。

10月11、12日に開催された第39回日本死の臨床研究会年次大会の事例検討2の枠で演者として出席した。演題は「患者が言葉で訴える苦痛とは別の苦痛を捉える一麻薬の持続皮下投与を中止した事例を振り返って―」であり、座長の原敬先生、藤田智子先生とともに50分の検討会を行い、患者なりの苦痛の捉え方、認識をアセスメントしながら、その患者に合わせた苦痛緩和の優先順位を考えなければならないこと、そしてその中には患者の文化や慣習を加味し、多職種で関わることの重要性、多職種で関わる場合においても全てのスタッフが患者に直接介入する必要はないことなど、ケア介入における話し合いの場が持たれた。

また、11月28、29日に開催された第27回日本生命倫理学会年次大会において、大学院生3人での共同研究として、「死が多様化する社会における『望ましい死（good death）』—看護師が経験した3事例からの考察—」というテーマでポスター発表を行った。望ましい死の要因には、宮下先生が2007年に示しているもの以外に、【生活を大切

な人と共有できる】【大切な人が患者の死への向かい方を理解してくれる】【患者と大切な人が死に逝く人の生き方（人生）を評価できる】【看取りまで本人の役割が継続できる】などが抽出された。いかに終末期の患者と、患者が思う大切な人がどういう時間を過ごすか、ただ時間を長く過ごすことではなく、いかに濃密な時間を過ごせるかが重要であり、看護としてはその濃密な時間を過ごせるような環境づくりや、家族背景が多様化していく中で大切な人の存在がない場合には看護師が担う必要があるのかもしれないことまで示唆された。

<今後の課題>

次年度においては、看護研究を完了させることと、CNS になるための実習を行い、単位を取得することが目標。

看護研究に関しては、研究計画に則りながらデータ収集を行い、現象学における学習を行い、教員の指導を受けながら分析を行う。そのうえで、これまでの終末期がん患者に対する看護支援を見直し、終末期がん患者の視点で必要な苦痛緩和に向けた看護支援を検討していきたい。また、研究結果は学内の発表会だけではなく、論文の形とし、学術大会への口演発表へとつなげていけるよう努力する。

CNS 実習に関しては、実習Ⅲを通して、実際に患者を受け持ちながら CNS の役割を發揮することが求められる。病態を整理しながら実践するだけでなく、6つの役割を意識しながら、周りのスタッフをいかに巻き込みながら看護を行っていくかなど、これまでの実習で見つかった自分なりの課題を整理しながら望んでいく。また、就職し CNS として働くうえでの自分なりの課題も見出していきたい。